

平成 22 年度産科婦人科後期研修プログラム

1. プログラム目標

当院における産婦人科後期研修は、日本産科婦人科学会の専門医制度卒後研修目標に従って行う。

. 産科の臨床

- 1) 生殖生理学の基本を理解すること
 - a. 母体の生理
 - b. 胎児の分化、発育の生理
 - c. 胎盤の生理
 - d. 羊水の生理
 - e. 分娩の生理
 - f. 産褥の生理
- 2) 正常妊娠、分娩、産褥の管理
- 3) 異常妊娠、分娩、産褥の管理（リスクの程度を判定し、いかなる症例についても少なくともプライマリケアは行い得ること）
- 4) 妊、産、褥婦の薬物療法（母児双方の安全性を考慮した薬物療法を行い得ること）
- 5) 産科検査（少なくとも各検査法の原理と適応を理解し、またそのデータにより適切な臨床的判断をなし得ること）
 - a. 妊娠の診断法
 - b. 超音波検査法
 - c. 羊水検査法
 - d. 胎児、胎盤機能検査法
 - e. 分娩監視装置による検査法
 - f. X線検査法
 - g. その他
- 6) 産科手術の修得（特に以下について独立して行い得ること）
 - a. 子宮内容除去術
 - b. 鉗子・吸引分娩術
 - c. 骨盤位牽出術
 - d. 帝王切開術
- 7) 産科麻酔と全身管理（麻酔指導医のもとで必要な麻酔全般にわたる修練を受けることが望ましい）
 - a. 麻酔法の種類と適応を理解すること
 - b. 分娩室において産科麻酔を行い得ること
 - c. 全身管理を行い得ること

8) 新生児の管理

- a. 新生児の生理を理解すること
- b. 新生児仮死蘇生術を行い得ること
- c. 正常新生児を管理すること (minor trouble の治療を含む)
- d. 新生児異常のスクリーニングを行い得ること
- e. 未熟児、病児の出生直後のプライマリケア及び保育法を理解していること

. 婦人科の臨床

1) 婦人の解剖、生理学を理解すること

- a. 腹部、骨盤、泌尿生殖器、乳房の解剖学
- b. 泌尿生殖器の発生学
- c. 性機能系の生理学

2) 婦人科疾患の取扱い

- a. 感染症 (性病を含む) の診断、治療を行い得ること
- b. 腫瘍
 - 良性腫瘍 (エンドメトリオーシスを含む)
 - 診断、治療を行い得ること
 - 悪性腫瘍
 - 少なくとも早期診断、病理、治療についての一般的知識を有すること
- c. 内分泌異常 (発育、性分化異常を含む)
 - 一般治療に必要な知識と経験を有すること
- d. 不妊症
 - 一般治療に必要な知識と経験を有すること
- e. 性器の垂脱
 - 診断、治療を行い得ること
- f. 婦人科心身症 (更年期障害を含む)
 - 検査、診断、治療を行い得ること
- g. 乳房疾患
 - 乳房検診を行い得ること
- h. その他の一般治療に必要な疾患診断、治療を行い得ること

3) 婦人科疾患の全身管理を行い得ること

- a. 救急時の全身管理
- b. 輸液
- c. 輸血
- d. 薬物療法

4) 婦人科手術 その1

- a. 術前、術後の全身管理を行い得ること
- b. 手術のリスクを評価し得ること
- c. 術後合併症の診断と処置が出来ること

5) 婦人科手術 その2

a. 主治医として以下の手術を執刀できること

子宮内容除去術

付属器摘出術

単純子宮全摘出術（腹式、膣式）

子宮脱に対する根治手術

b. 悪性腫瘍の根治手術の助手を務めた経験のあること

6) 放射線療法

a. 放射線の種類、特徴など基礎的事項を理解していること

b. 治療の種類、特徴を理解し、適応について意見を述べられること

c. 治療中の患者管理を行い得ること

d. 放射線防禦の基礎知識を有すること

. 産婦人科の内分泌学

1) 性機能系に関するホルモンの種類、生理作用、作用機序、代謝などを理解すること

2) 内分泌検査法の原理と適応を理解し、結果の判定が可能なこと

a. 基礎体温測定法

b. 頸管粘液検査法

c. 膣内容塗抹検査法

d. 各種ホルモン測定法

e. 各種ホルモン負荷試験

3) ホルモン療法の種類と原理を理解し、その経験を有すること

a. 排卵誘発法、排卵抑制法

b. 子宮出血止血法、子宮出血誘発法

c. 黄体機能不全治療法

d. 乳汁分泌抑制法（高プロラクチン血症治療法）

e. 更年期障害治療法

f. 月経随伴症状治療法

4) 産科内分泌

a. 胎盤ホルモンの種類、生理作用、作用機序、妊娠経過による変化などを理解すること

b. 胎児胎盤系におけるステロイドホルモン産生の機序と臨床的意義を理解すること

c. 子宮収縮（分娩）に関係するホルモン（オキシトシン、プロスタグランジンなど）の基礎知識を有し、それを臨床に用いられること

d. 乳汁分泌の機序を理解すること

・産婦人科の感染症学

1) 婦人性器の感染症

- a. 性器感染症の特徴を理解すること
- b. 病原体の種類、検出法、感染による症状を理解すること

2) 産科の感染症

- a. 妊婦における感染症の特殊性を理解すること
- b. 胎内感染と胎芽、胎児病（先天異常）の関係を理解し、患者を指導し得ること
- c. 周産期感染の診断、治療、予防が出来ること
- d. 新生児感染症の取扱い方法を理解していること

3) 治療法

- a. 抗菌剤の種類と特徴を理解していること
- b. 抗菌剤の選択を適切に行い得ること
- c. 禁忌、副作用を理解していること

・産婦人科病理学

1) 婦人性器の基本的な組織構造を理解していること

2) 婦人科腫瘍の病理組織学的特徴を理解していること

3) 病理組織学的診断の内容を的確に理解し、それにより治療方針を決定し得ること

4) 細胞学的診断（スメア検査）の内容を的確に理解し得ること

5) 染色体および性染色質検査法を理解していること

6) 剖検例の見学が望ましい

・母性衛生

1) 妊、産、褥婦、新生児の保健指導を行い得ること

2) 家族計画の指導を行い得ること（経口避妊薬の投与、IUDの挿入・抜去を含む）

3) 母体保護法など母性衛生関連法規を理解していること

・専門医としての一般的要件

1) 社会保険制度の概要を理解していること

2) 診療記録の作成、整理を適切に行い得ること

3) 患者あるいは関与する他の医師、パラメディカル、その他との信頼関係を確立するに
足る倫理と人間性を有すること

2. 研修責任者 川原 領一（産婦人科診療部長）

3. スタッフの資格

川原 領一	日本産科婦人科学会認定専門医
中川 俊信	日本産科婦人科学会認定専門医
酒井 正利	日本産科婦人科学会専門医
佐々木 泰	日本産科婦人科学会専門医
前 喜代子	日本産科婦人科学会専門医
小西奈保美	日本産科婦人科学会専門医

4. 施設認定

日本産科婦人科専門医制度卒後研修指導施設
日本母性保護法指定病院

5. 当院産婦人科の概要

1) 周産期

当院は、県内でも有数のNICU（未熟児専門の医療設備、スタッフ）を備え、各科との連携を密にあらゆる合併症の妊婦さんの治療を行っています。

夫立会い分娩も可能です。

また分娩は、自然分娩を基本としています。

外来妊婦検診では、最新のカラードプラー超音波検査（胎児の血流測定が可能）4D超音波検査を行い、胎児の状態を迅速に診断可能です。

2) 不妊症

ART（生殖補助医療）として、体外受精、顕微受精、受精卵凍結を行い、積極的に取り組んでいます。（現在は休止中です。）

3) 婦人科疾患

すべての情報を提供し、理解していただいて（インフォームドコンセント）治療法の選択を行っています。

4) 手術

肉体的に負担の少ない手術を目指しています。

1. 膣式の子宮摘出や尿失禁の手術（お腹に傷はつきません）

2. 腹腔鏡での手術（お腹に10ミリの傷を2・3箇所つけて、子宮筋腫・卵巣腫瘍などを摘出）

3. 子宮鏡での手術（膣から子宮にカメラを入れて子宮を残したまま筋腫を切除）を積極的に行っています。

5) 悪性疾患

患者さんの生活の質を大切に、最新の医学情報（世界レベルの）を基に集学的治療を行っています。

《実施状況》

検査・処置・手術名	年間症例数				
	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
手術総数	353例	325例	366例	386例	356例
体外受精	20例	19例	-	-	-
子宮全摘術（腹式・腔式）	71例	77例	75例	67例	68例
婦人科腹腔鏡下手術	38例	45例	49例	39例	34例
子宮鏡手術（TCR）	32例	24例	25例	20例	19例
卵巣悪性腫瘍手術	7例	7例	8例	7例	7例
子宮悪性腫瘍手術 （リンパ節郭清術を伴う）	9例	8例	4例	9例	5例

分娩種別	年間症例数				
	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
総分娩数	460例	398例	410例	445例	465例
うち帝王切開術	92例	92例	112例	134例	118例